**第4課　何によって礼拝するのか？ 2020.2.9**

◎賛美 : 韓日 23番　◎ 使徒信条

◎アイスブレーク　愛する人に渡したプレゼントの中で一番記憶に残っている物は何ですか？

◎ みことばの中へ

**テーマのみことば**

そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって、多くの不思議なわざとあかしの奇蹟が行なわれた。信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。(使徒の働き2章 42∼47節).

**みことばを広げよう**

今課では礼拝を構成する要素について学んでいきたいと思います。

**賛美**

神様を礼拝することにおいて賛美は大きな比重を占めます。表現的で叙情的な賛美の歌詞は私たちの感情を刺激し信仰心をますます高揚させます。事実賛美は聖書的で伝統的な礼拝の要素です。イスラエルの民たちは紅海を渡るやいなや神様に賛美しました。 “「主に向かって歌え。主は輝かしくも勝利を収められ、馬と乗り手とを海の中に投げ込まれた。」”(出エジプト15：21) 詩編は神様の偉大さをあがめ、救いの恵みに感謝する賛美の詩です。したがって私たちは礼拝の度に “詩と賛美と霊の歌”で神様をあがめなければなりません (エペソ 5:19)。

**みことば**

神様のみことばを聞くことは礼拝の重要な要素です。神様は神様の民をみことばによって導かれました。信仰の先祖アブラハムはみことばによって導かれ、モーセを通してイスラエルの民たちに律法を与え、ダビデに彼の御座は永遠であると語られました。イエス様も弟子たちにみことばを教えられ、使徒たちも初代教会の聖徒たちにみことばを伝えました。そしてこのような神様のみことばが数千年間続いて伝えられ今日、新旧約聖書として私たちに伝えらています。従って私たちは礼拝を捧げる時、新旧約聖書を読み、神様のみことばを反芻し、説教を聞き、神様のみことばをより明確に悟らなければなりません。

**祈り**

礼拝でみことばが人に向かう神様の声ならば、祈りは神様に向かう人の声です。従って祈りは人が神様に捧げる告白だと言うことができます。ひいては祈りを通して人が神様のみこころを悟ることができるので、祈りは神様との対話でもあります。祈りの言葉は、敬拝、悔い改め、感謝、願いとして特徴づけることができます。敬拝は神様に全ての栄光を帰し賛美する行為です。イエス様が教えてくださった主の祈りにも最初を敬拝で始めているほど、祈りで敬拝は非常に重要です(マタイ6：9)。悔い改めは私たちが犯した罪を神様に認め赦しを求めて再び聖なる暮らしを生きることを決心することです。感謝は神様が恵みを与えてくださったことと、これから恵みを与えてくださることに対する感激と信頼の表現です。願いは私たちの必要を神様に言い表すことです。私たちは礼拝を捧げる時、このように祈り、神様と親密な交わりを分かち合わなければなりません。

Q : 祈りの言葉の四つは何ですか？

**聖餐**

聖餐はバプテスマと共に、イエス様が直接定められた儀式です。イエス様は弟子たちにイエス様の肉と血を象徴するパンとブドウ酒を共に食べ、飲むことでイエス様の十字架の犠牲を、イエス様が再び来られる時まで記念しなさいと言われました(マタイ26：26-29、Ⅰコリント11：26)。私たちはこのみことばに従順し、今日まで礼拝の時に聖餐式を行っています。聖餐が救いの影響を与えるのではありません。しかし私たちは聖餐にあずかることで、イエス様の救いの恵みを体験し、また記念することができます。従って私たちは聖餐をあずかる度に、私たちのために死なれてよみがえられたイエス様の恵みが私たちに充満に臨むことを望んでイエス様の犠牲と愛を覚えて感謝しなければなりません。

Q : 聖餐の目的は何ですか？

**献金**

献金を捧げることもまた礼拝の要素です。イエス様は私たちに“あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。”と言われました(マタイ6：21)。従って私たちが捧げる献金は神様に向かう愛の表現であり、礼拝になります。そして献金は貧しい人々のための救済と礼拝に仕える教会の運営のために用いられます(使徒11：28-30)。したがって私たちは志願する心と感謝する心で献金を捧げなければなりません(Ⅱコリント9：7-8)。

**◎ 暮らしの中へ**

1. 讃美歌でも福音聖歌でもあなたが一番好きな賛美は何であり、その理由は何ですか？

2. 私たちは主日に捧げる礼拝を通して神様に出会い、一週間を生きる力を得ます。しかし主日礼拝で神様の恵みを豊かに体験するためには月曜日から土曜日まで日常を生きていく間に捧げる暮らしの礼拝が完全でなくてはなりません。月曜日から土曜日まで暮らしながら暮らしの礼拝を完全に捧げていますか？先週の暮らしを振り返り、点検してみてください。そして暮らしの礼拝をより完全に捧げるためにあなたのどのような部分を改善しなければならないか考えてみましょう。

-会社員であるキム聖徒は昼食後に同僚たちと共にコーヒーを飲みしばらくの余裕を楽しみます。しかしコーヒーを一杯飲みながら話す内容はそこにいない同僚を非難し、笑い者にすることが主でした。キム聖徒はこれに同調しながら共に笑い、話す時間を持つ場合が多くあります。キム聖徒はこのような自分の姿を悔い改め、平和をつくる者として召された聖徒の本分を守ると決心しました。日常を過ごす間、他人を非難しないことを暮らしの礼拝として捧げることとして決断したのです。

**◎ 決断と祈り**

**決断の告白**

·礼拝を捧げることを一番大切にします。

· 礼拝の全ての順序が尊いものであることを覚えて礼拝を捧げる時間の間、神様に集中します。

**祈り**

祈りの課題を分かち合い、今日のみことばを考えながら伝道対象者のために声を出して祈りましょう。

**今日の祈り**

礼拝は被造物の本分であることを覚えます。神様の偉大さと神様の行われた業を毎日賛美する私にならせてください。神様のみことばを聞くことを慕い求め、祈ることを休まない私にならせてください。礼拝の場所に進み出る度に神様の恵みを充満に体験させてください。神様が私の全てであることを告白します。イエス様の御名によってお祈りします。アーメン。

**◎主の祈りで終える**

**関連聖句**

· ハレルヤ。神の聖所で、神をほめたたえよう。御力の大空で、神をほめたたえよう。 その大能のみわざのゆえに、神をほめたたえよ。そのすぐれた偉大さのゆえに、神をほめたたえよ(詩編 150篇 1∼2節)

· あなたはイスラエル人に告げて言え。あなたがたは、必ずわたしの安息を守らなければならない。これは、代々にわたり、わたしとあなたがたとの間のしるし、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、あなたがたが知るためのものなのである。(出エジプト 31章 13節)